

# 学校教育評価 令和7年度アンケート結果、及び 令和6年度との比較

アンケート実施：令和7年12月（数字は%）

調査人数：全校人（児童 210/220人）

保護者アンケート児童数配布 回答数 109人（家庭数戸169）

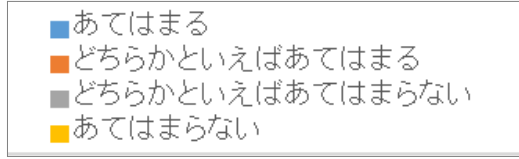
教職員 19人

評価：A（あてはまる）

B（どちらかといえばあてはまる）

C（どちらかといえばあてはまらない）

D（あてはまらない）



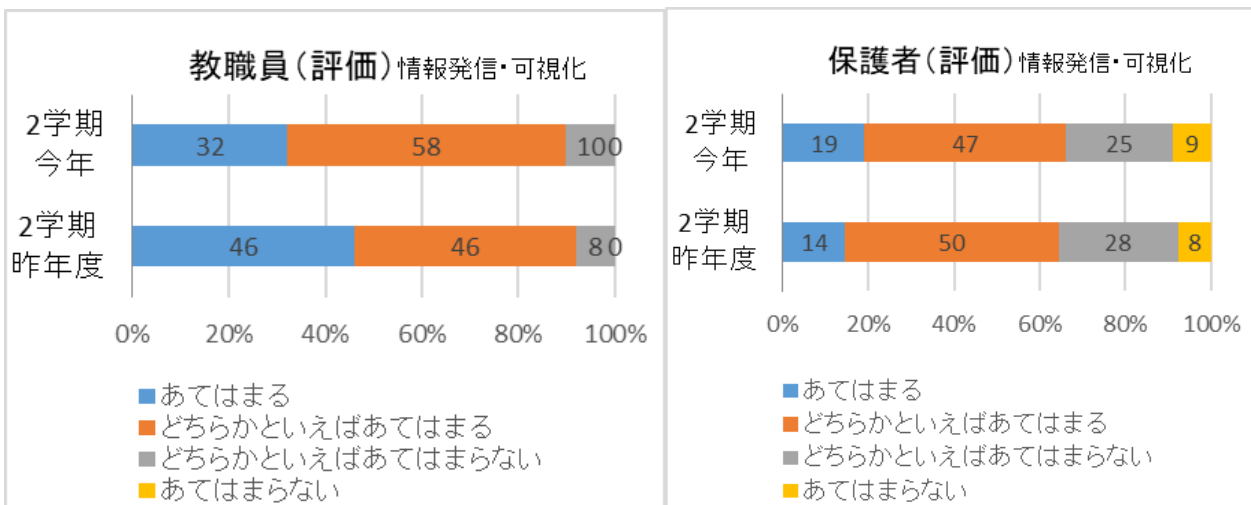
## 【開かれた学校づくり】

・学校生活や学習状況等について、積極的に情報発信し、教育活動の可視化を図る。

**教職員**（問1）学校からの家庭や地域への情報発信はよくできている。

**保護者**（問1）ホームページやメールなどにより、学校の様子がよくわかる。

			A	B	C	D		達成 状況
教職員	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 32	58	10	0	A	B
保護者	A：A+Bが90%以上 C：上記以外	B：A+Bが70%以上	問1 19	47	25	9	B	



### 【記述欄】

記述なし

### 【分析・今後の対応】

教職員は「あてはまる」が昨年度よりも14pt減ったが「どちらかといえばあてはまる」を合わせると90%を超えるため、全体的にホームページやお知らせメールで情報発信できたと評価している。

保護者においては、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」が昨年度よりも増えたものの、合わせても70%より低いままである。保護者に普段の様子がより伝わりやすくなるように、どの学年もホームページでの更新を定期的に行ったり、写真を多めに掲載したりすることを検討する。さらに、普段の様子や学習の様子については、毎月予定している学校へ行こうDAYや参観日等は続け、子どもたちの様子を知ってもらえるようにする。

## 【生活指導】

・「人・物・時間」を大切に、家庭、地域、学校どこでも自分から進んで挨拶できる子どもを育てる。  
 〈自律について〉

**教職員** (問2) 児童が判断したり、決めたりする機会を増やしている。

**保護者** (問2) 家庭でも一人でできることが増えてきた。

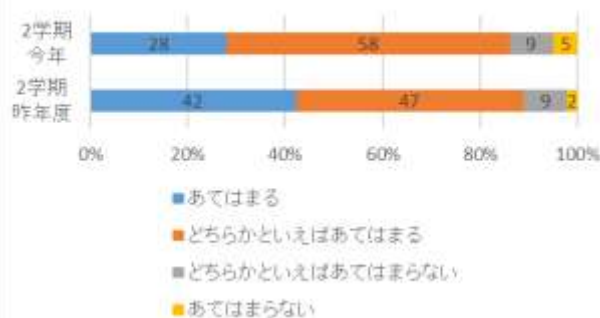
**児童** (問1) 自分で考えて行動している。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	32	58	10	0	A	A
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問2	28	58	9	5	B	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが60%以上	問1	57	38	6	1	A	

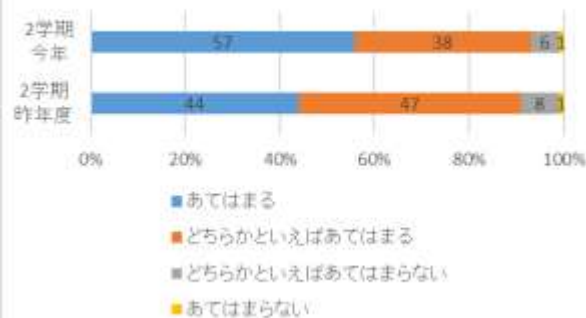
教職員(評価)選択・判断の機会の充実



保護者(評価)自分からやろうとすることが増えた



児童(評価)自分で考えて行動



### 【記述欄】

キーホルダーはダメなのにヘアカラーはしても良いのが納得がいかない。

付けていくお守り一つがオッケーなのでしたら、大きいぬいぐるみをお守りだと言い張ってもいいのでしょうか。

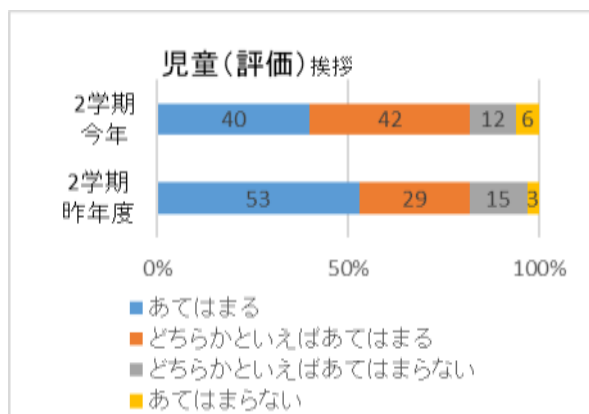
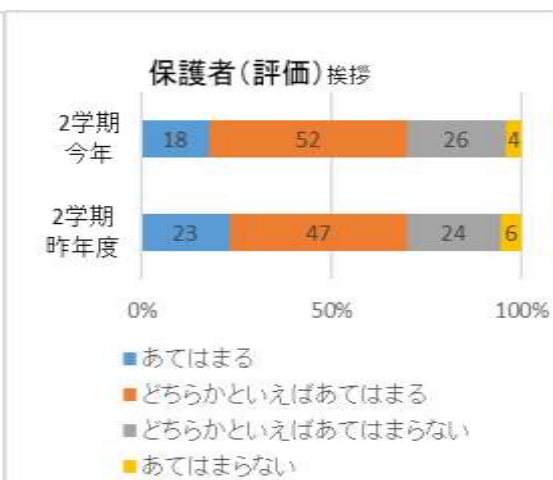
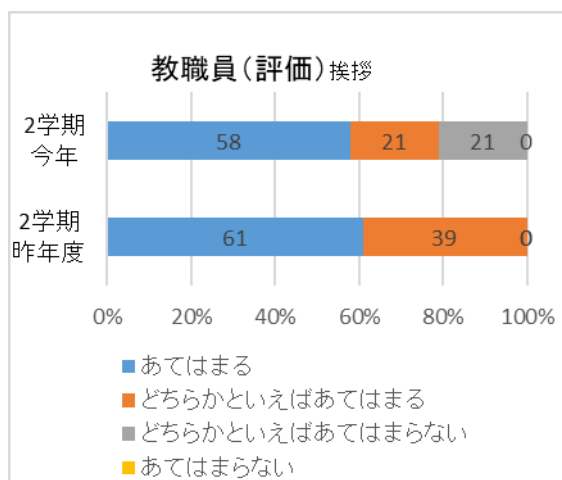
### 【分析・今後の対応】

児童は、「あてはまる」が13pt増加、「どちらかといえばあてはまらない」が2pt減少している。教職員は、「あてはまる」が9pt増加、「どちらかといえばあてはまらない」が5pt減少している。毎月の月目標で「人・物・時間」についての内容を掲げて啓発することで、学校生活の中で意識しながら行動できる取り組みが効果的であったと評価している。

しかし、保護者においては、「あてはまる」が14pt減少し、「あてはまらない」が3pt増加している。また、保護者の記述欄では、「キーホルダーはダメなのにヘアカラーはしても良いのか納得がいかない」「付けていくお守り一つがオッケーなら、大きいぬいぐるみをお守りだと言い張ってもいいのではないか」という意見があった。学校でのルールをその都度、啓発し、共有する必要がある。また、児童が自分で考えて行動できるように判断したり、決めたりする機会を増やしていきたい。そして、家庭や地域と連携を図り、本校の教育活動への理解を求めながら積極的に進めていきたい。

- 教職員** (問3) 子どもたちは、学校や地域であいさつするように指導している。
- 保護者** (問3) 家でも、学校でも、地域でも、よく挨拶をしている。
- 児童** (問2) 家でも学校でも地域でも、自分から進んであいさつをしている。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	58	21	21	0	<b>B</b>
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問3	18	52	26	4	<b>B</b>
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 60%以上	問2	40	42	12	6	<b>B</b>



**【記述欄】**

記述なし

**【分析・今後の対応】**

教職員は挨拶の指導をしているが、子ども達の実態から十分に指導が入っていないと感じている。結果としても、「どちらかといえばあてはまらない」が2.1pt増加している。

児童は、自分から進んで挨拶をしていることについて「あてはまる」が1.3pt減少し、「あてはまらない」が3pt増加していた。保護者は、「あてはまる」が3pt減少している。

挨拶はコミュニケーションの第一歩として社会に出ていくうえで大切な力である。挨拶への意識を高く持つことができるような工夫した取り組みをしていく必要がある。また、教職員だけにとどまらず、PTAや児童会、そして地域と連携をしながら挨拶の活性化に努めていきたい。

## 【学習指導】

- ・「聴き合い、対話し、学び合う学び」を通して、「わかった」「できた」と一人ひとりが実感し、学び続けようとする意欲を育てる。
- ・協働的な学びを通して、一人ひとりのよさや個性を認め合い、共に学び合う集団づくりに努める。

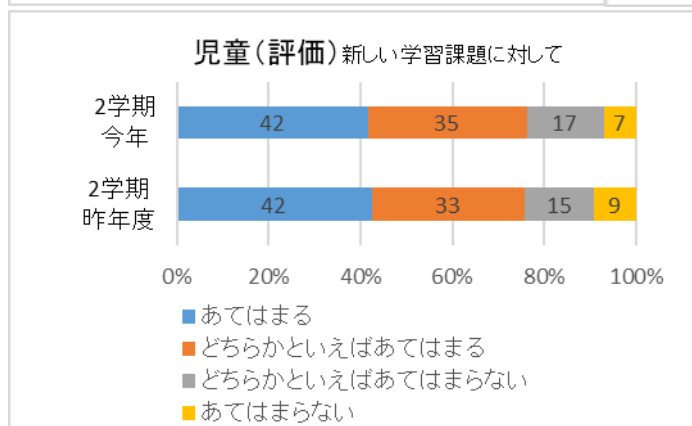
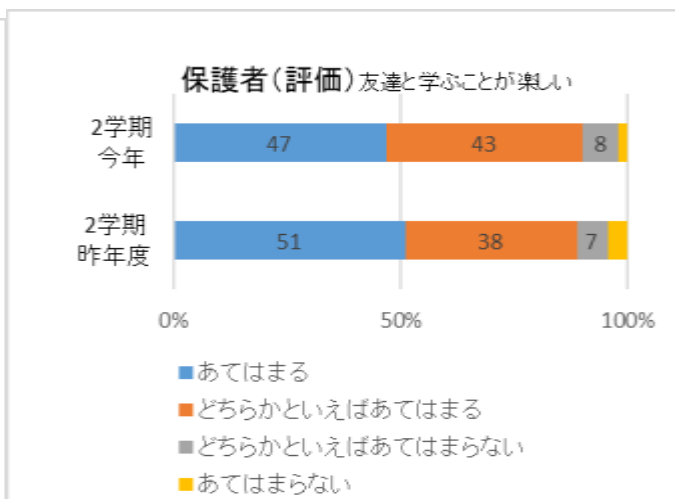
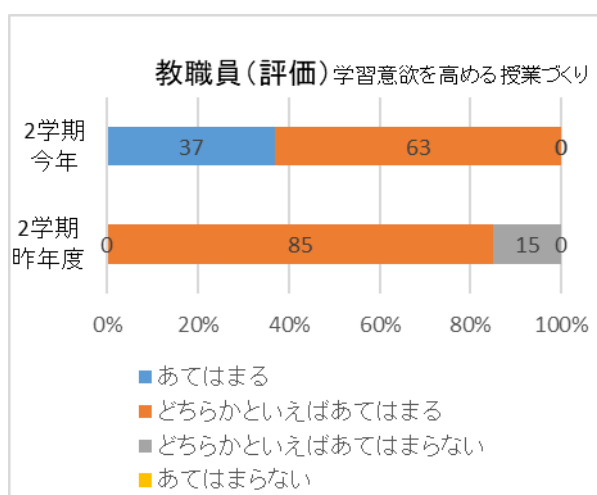
〈学ぶ意欲について〉

**教職員** (項目4) 学習意欲を高める授業づくりに努めている。

**保護者** (項目4) お子さんは、友だちと学ぶことを楽しんでいる。

**児童** (項目3) 新しい課題、学習に取り組む時は楽しみだ。

			A	B	C	D		達成状況
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問4 37	63	0	0	A	A
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問4 47	43	8	2	A	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問3 42	35	17	7	B	



### 【記述欄】

●タブレット、プリントなど、先生方がいろいろな工夫をしてくださるため、今の子達は同じ内容でもいろいろなアプローチで学ぶ事ができるようになっているんだと日々感じています。ただ、親がそこについていけないため、子どもの「これ何でこうなるん？」の質問になかなか家庭で対応できていないのが現状です。

【分析・今後の対応】

教職員については、昨年度と比べて、学習意欲を高める授業づくりに取り組むことに対して積極的に取り組んでいる割合が多くなっている。また、保護者の回答でも肯定的な評価の割合が昨年度に比べ多くなっている。タブレットを積極的に効果的に活用し、子どもたちの意欲を引き出す授業改善に取り組んでいる。一方で、児童の回答は、昨年度と大きく変わらない結果となった。「あてはまる」と答えた児童の割合の方が多いが、「あてはまらない」と答えた児童の割合は変わらずであった。日々の学校生活の中で、生活指導上の事案が発生し、落ち着いた環境で学習ができない状況があることも一因と考える。

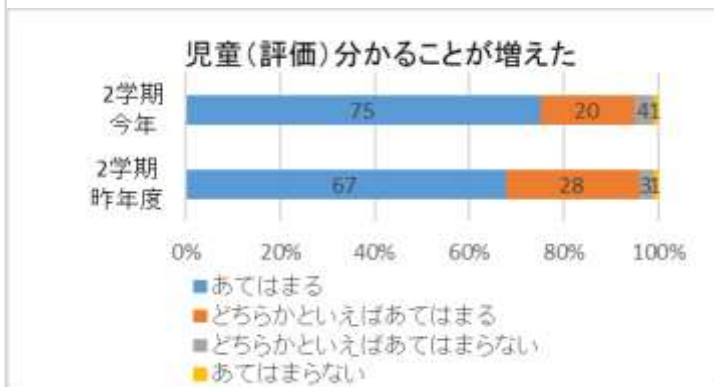
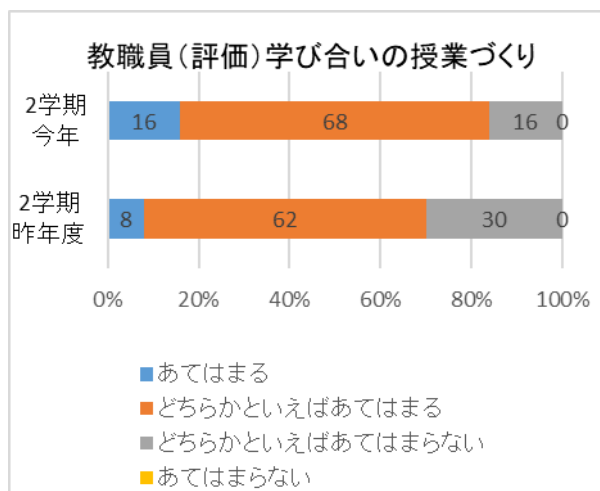
様々な学習形態がある今、子どもたちの興味関心に基づいた授業づくりやタブレットの活用などを通して、自ら課題に向かう力をはぐくんできたい。また自信を持って課題に向かうには、基礎的な学力の定着も必要である。つまずきや、苦手を学びなおす機会を日常的に設けるなど、手立てを検討していきたい。

〈分かった・できたの実感について〉

**教職員** (項目5) 友だちの意見を聞いたり、考えを伝えたりと、学び合いの授業づくりをしている。

**児童** (項目4) 勉強をしていて、少しでも分かることやできることがふえてきた。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問5	16	68	16	0	B	B
児童	A : A+Bが90%以上 C : 上記以外	B : A+Bが70%以上	問4	75	20	4	1	A	



【記述欄】

記述なし

【分析・今後の対応】

教職員については、「あてはまる」「どちらかといえばあてはまる」の割合が増加しており、「どちらかといえばあてはまらない」が減少していることから、昨年度に比べて、学び合いのある授業づくりを意識的にできていると感じている教職員が増えている。対話的・協働的な授業づくりには、対話の視点の明確化や児童が自由に意見を述べるのできる環境づくりが必要である。来年度も引き続き学び合いの授業ができる環境づくりに取り組んでいきたい。

児童の回答では、「あてはまる」の割合が昨年度よりも増加し、全体的に肯定的な評価が多い傾向にある。生きて働く知識として定着させるために、実際にやってみる・友だちと話し合うなどの、対話的・協働的な学習の中で学んだことの活用場面を設定することも大切である。一方的な講義型の授業ではなく、児童が自発的に考え、学び合う機会をなるべく保障できるように改善していきたい。

## 【人権教育】

・学校・家庭生活における指導を通して、互いに人権を尊重し合い、自尊感情を育むように努める。

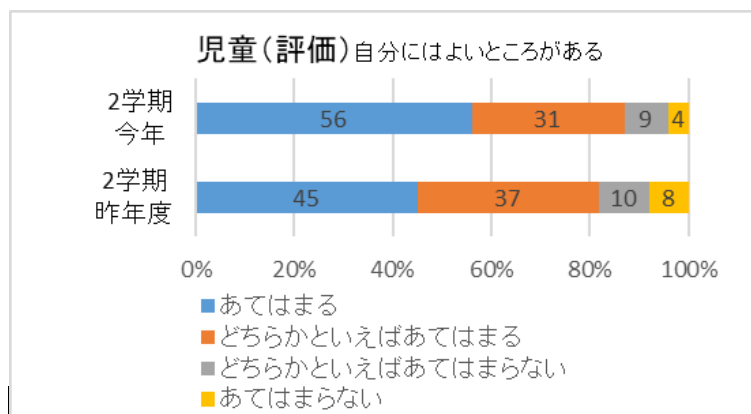
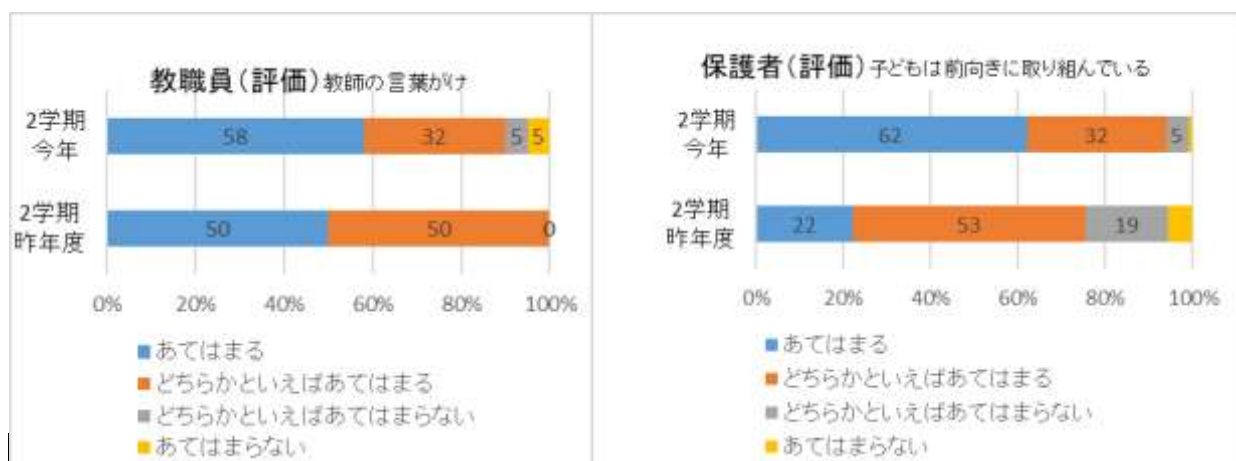
〈自尊感情について〉

**教職員** (項目6) 子どもの伸びを認める言葉かけの質の向上に努めている。

**保護者** (項目5) お子さんは自信を持って前向きに取り組んでいる。

**児童** (項目5) 自分にはよいところがある。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問6	58	32	5	5	A	A
保護者	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問5	62	32	5	1	A	
児童	A: A+Bが90%以上 C: 上記以外	B: A+Bが70%以上	問5	56	31	9	4	B	



### 【記述欄】

記述なし

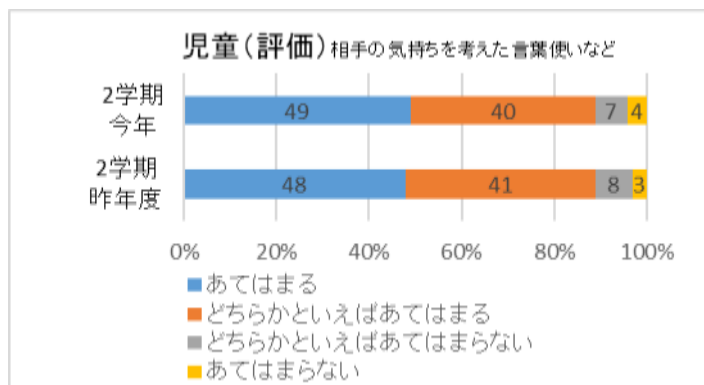
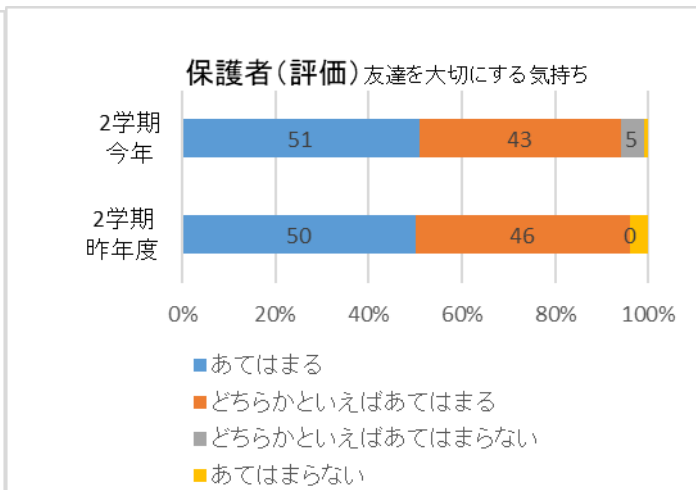
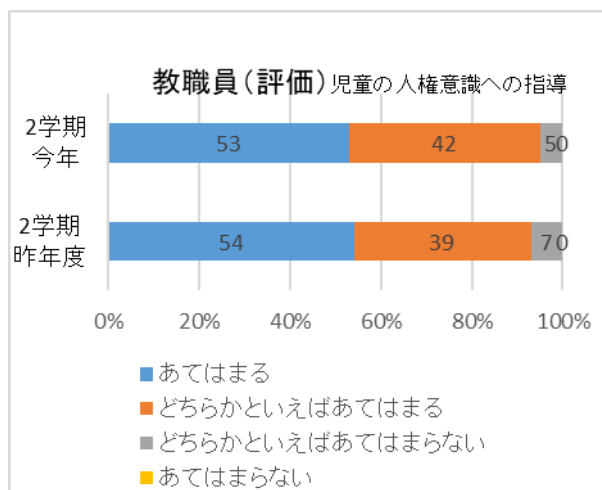
### 【分析・今後の対応】

「自分にはよいところがある」と感じている児童は全体的に多く、昨年度に比べ11pt増えている。保護者の設問に関しては、児童が「自信をもって前向きに取り組んでいる」と感じている保護者が8割以上である。児童の伸びや頑張りを認める個々への言葉掛けを意識して取り組んできた成果である。今後も、さらに子どもたち同士がお互いの良さや頑張りに目を向けつつ、違いを認め合える学級風土、学校風土を作り上げ自己肯定感を高めていきたい。

〈人権意識について〉

- 教職員** (項目7) 児童の人権感覚や人権意識が育つように指導している。
- 保護者** (項目6) お子さんは、友だちを大切にする気持ちが育ってきている。
- 児童** (項目6) 相手の気持ちを考えた行動、声かけ、言葉づかいができています。

			A	B	C	D		達成状況	
教職員	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 7	53	42	5	0	A	<b>A</b>
保護者	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	51	43	5	1	A	
児童	A : A+B が 90%以上 C : 上記以外	B : A+B が 70%以上	問 6	49	40	7	4	B	



**【記述欄】**  
記述なし

**【分析・今後の対応】**  
教職員、保護者、児童共に今年度も高い評価を維持している。しかし、保護者アンケートでは否定的な回答も昨年度より増えている。この点を踏まえ、相手の立場や気持ちを考えた言葉遣いや行動について学び実践するソーシャルスキルトレーニングを、今年度に引き続き全校集会や学級指導などの場において、より一層進めていきたい。

## 【複数学年複数担任制】

- 担任を複数人で担当する制度は今後やめてください。

### 【分析・今後の対応】

複数学年・複数担任制については、全国的に広がる中で、賛否両論ありますが、本校は、子どもたちの「自律できる子」の育成を目標に取り組んでいます。実際に、「自分で考えて行動している」と回答する児童が昨年 91%だったのが、今年度は 95%と肯定的評価が高くなっており、この数値は、小学校として高い水準を示していると捉えています。多様な子どもたちが増える中で、より多くの先生たちが子どもたちと関わることで、子どもたちに合った指導を展開できたり、先生方の協働性も生まれたりしています。さらに、多くの先生とのかかわりを楽しむ子どもたちもいます。しかし、やめてほしいという保護者の意見も大事にしたいと考えます。ぜひ、その理由や改善点などを、いろいろな場で学校に届けていただき、子どもたちにとっても教職員にとっても最も良い方法を探っていきたいと考えます。

## 【その他】

### 【記述欄】

- 友達関係は良好ですが先生と合わないようで、学校に行くことや勉強をすることを嫌がることがあります。子供から聞くだけなので真実はわかりませんが、先生の言動が教師である以前に大人また社会人としてどうなのかと疑問に思うようなことがあります。

### 【分析・今後の対応】

ご意見をお寄せいただき、ありがとうございました。

教職員の言葉遣いや言動についてのご指摘を真摯に受け止め、教育に携わる者として、また一人の社会人として適切な姿勢や言葉遣いができているかを、改めて見直す機会といたしました。

本校では、「学校に行くのは楽しいと思いますか」という質問に対し、肯定的に回答した児童が 82% (全国学力・学習状況調査 児童質問紙より) と、高い水準を示しています。また、「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか」という質問に対しても、97.5%の児童が肯定的な回答をしております。これらの結果は、教職員が児童一人ひとりに寄り添った支援や指導に努めていることに加え、児童自身が「自分たちでクラスや学校をよりよくしていこう」と主体的に考え行動していることも一因であると捉えております。授業力の向上につきましても、教職員が校内研修等を通して研鑽を重ね、「分かる・できる」を実感できる授業づくりに引き続き努めてまいります。

今後も、児童一人ひとりが「学校が楽しい」「友だちと安心して過ごせる」「学ぶことが楽しい」と感じられる学校づくりを一層推進してまいります。